

2023年8月10日 全2頁

中国の団体旅行解禁でインバウンド消費額は2,000億円程度押し上げ

ただし今後の回復ペースには留意が必要

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

- 中国政府が日本向け団体旅行の解禁を発表した。団体旅行の解禁により、2023年の訪日客全体の消費額は2,000億円程度押し上げられ、4.1兆円程度となる見通しだ。
- もっとも、新型コロナウイルスの感染拡大以降、中国人観光客は旅行先として日本以外の国・地域を選ぶ割合を高めていることには留意が必要だ。こうした状況が継続した場合でも、団体旅行の解禁で2023年のインバウンド消費額は4.0兆円程度となると見込まれる。

中国からの団体旅行の解禁で2,000億円程度のインバウンド消費増

中国政府は2023年8月10日、日本への団体旅行を解禁すると発表した。

振り返ると、日本政府は2022年末に中国で発生した新型コロナウイルスの感染爆発を受けて、中国からの直行便での入国者に対する水際対策の臨時的措置を実施した。中国政府はこれに反発し、2023年2月の団体旅行一部解禁では日本を対象外にした。日本政府は4月29日に臨時的措置を完全撤廃したが、その後も解禁は見送られていた。同問題は中国政府の政治マターとなり、長期化する恐れもあったが、突如、方針が転換された。中国からの団体旅行の解禁は急回復が続くインバウンド消費にとって更なる追い風となる。

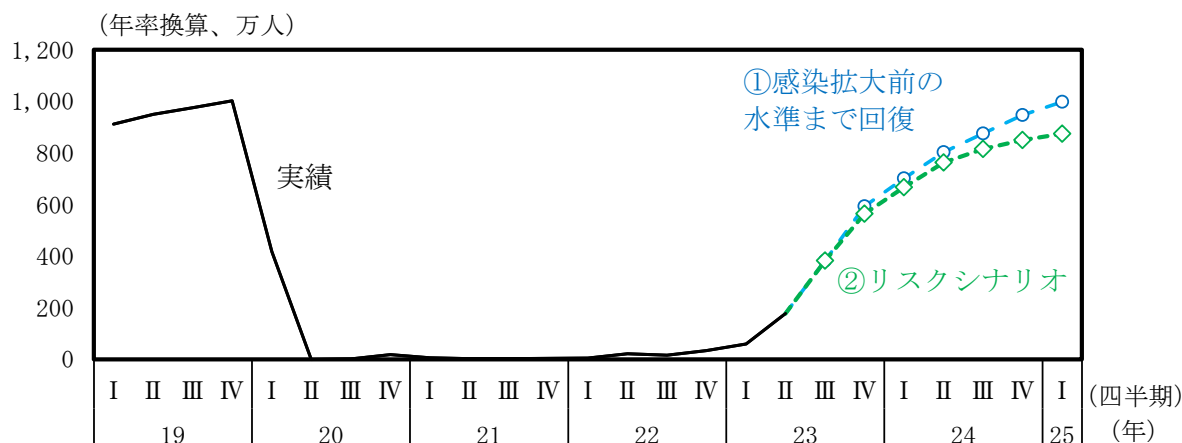
中国からの団体旅行の解禁を踏まえた中国人訪日客数の想定を示したものが**図表1**だ。ここでは2つのシナリオを示している。シナリオ①では、団体旅行が2023年8月中に解禁され、2025年1-3月期までに中国人訪日客数は感染拡大前の水準（2019年で1,000万人程度）を回復すると想定した。その結果、直近の実績値も反映させた2023年の訪日外客数は2,410万人、実質インバウンド消費額は4.1兆円程度と見込まれる。1人あたり旅行消費額を足元から横ばいと置くと、団体旅行の解禁により訪日客全体の消費額は2,000億円程度押し上げられる見通しだ（**図表2**）。

他方で、シナリオ②ではシナリオ①と比べて中国人訪日客数の回復を、感染拡大前を下回る緩やかなものと想定している（**図表1**）。この差は、中国人観光客の旅行行動の変化にある。新型

コロナウイルスの感染拡大以降、中国人観光客は旅行先として日本以外の国・地域を選ぶ割合を高めている¹。この場合でも、2023年の訪日外客数は2,400万人、実質インバウンド消費額は4.0兆円程度と見込まれる。

団体旅行の解禁により、中国人訪日客の回復基調は強まるだろう。今後の回復ペースも含めて、インバウンドの動向には引き続き注目だ。

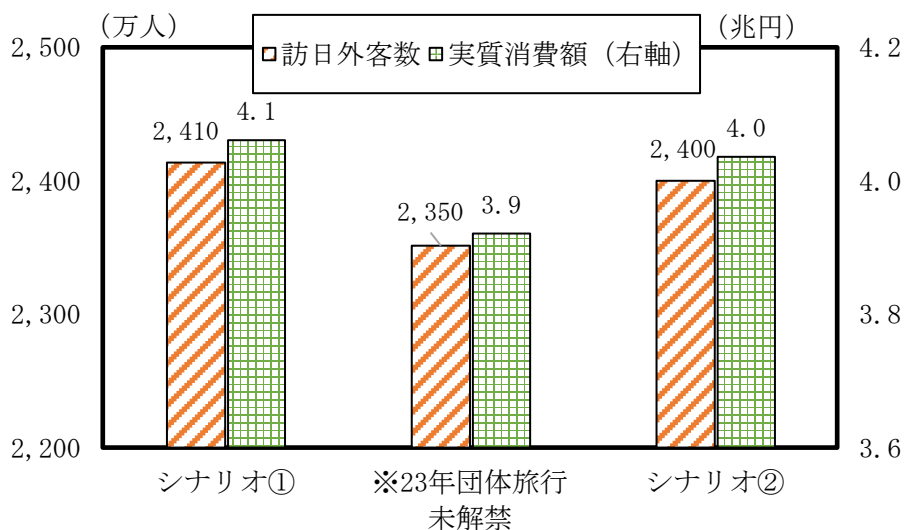
図表1：中国人訪日客数の推移



(注) ②リスクシナリオでは中国人訪日客は約5%分が回復しないと想定。その他の国・地域からの訪日外客の想定は当社の直近の経済見通し²から変更なし。

(出所) 日本政府観光局、観光庁、内閣府統計より大和総研作成

図表2：2023年の訪日外客数と実質インバウンド消費額の見通し



(出所) 日本政府観光局、観光庁、内閣府統計より大和総研作成

¹ 詳細は、神田慶司・中村華奈子「日本経済見通し：2023年7月」（大和総研レポート、2023年7月20日）

² 詳細は、熊谷亮丸他「第217回日本経済予測（改訂版）」（2023年6月8日）